

中谷宇吉郎 没後50年

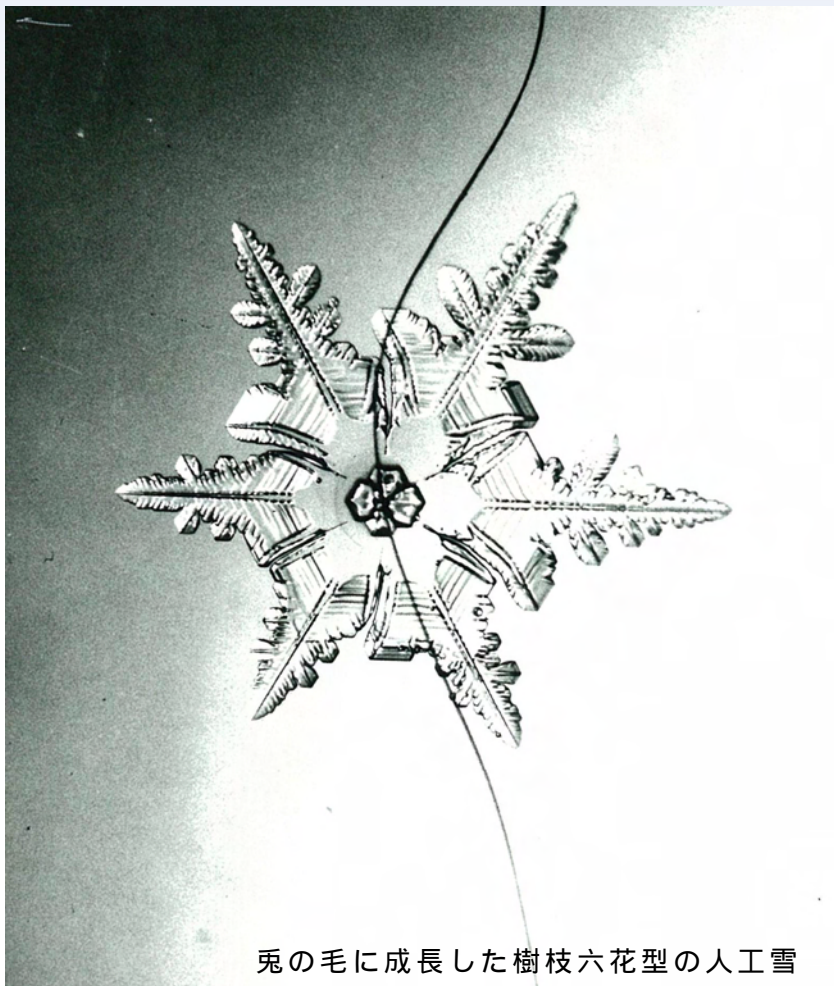
The 50th Anniversary Events Dedicated to the Memory of Ukichiro Nakaya

夏季行事

『人工雪誕生の地』の碑 - 北大常時低温研究室小史 -

日時 2012年6月5日〔火〕～7月29日〔日〕

会場 北海道大学総合博物館 1階「知の統合」コーナー



兎の毛に成長した樹枝六花型の人工雪

中谷宇吉郎博士が北大の一角に設けられた常時低温研究室において、昭和11年3月12日、世界で初めて人工雪結晶を成長させてから七十有余年が経過しました。

人工雪を始め、凍上、着氷、円板氷結晶など数々の輝かしい研究が行われたこの小さな研究室は、低温科学研究所の創立と共に研究所分室となり、その後様々な変転を経て遂に昭和53年8月取りこわしの運命に立ち至りました。

その後、中谷教授門下の人々を中心に計画が練られ、この地を世界に誇る人工雪誕生の場所として、また、その後の日本の雪氷学・雲物理学発展の基礎がきずかれた原点として、この研究室跡地に記念碑が建立されることになりました。

昭和54年7月4日、賛同者が多数参列する中、除幕の綱が引かれました。

記念碑は角板型雪結晶を形どった六角形で、正面の題字「人工雪誕生の地」は、最初に人工雪が作られた頃、中谷宇吉郎博士の共同研究者であった関戸弥太郎氏(北大理学部物理学科第3期卒業)の筆です。

「この地にあった小さな研究室が、むしろ小さいが故に、かつて密度の高い研究の数々を生んだことを知る私達は、この碑を眺める北大の若者達が、対象は異なっても、先駆的といえるような研究への野心と情熱を燃やしてほしいと願って、この記念碑を建てたのである。(『北大時報』1978/8より)」



北大総合博物館(旧理学部)北側の「人工雪誕生の地」の記念碑

主催:中谷宇吉郎没後50年記念事業実行委員会
共催:北海道大学総合博物館
協力:中谷宇吉郎雪の科学館(石川県加賀市)



北海道大学総合博物館
札幌市北区北10条西8丁目
TEL: 011-706-2658 FAX: 011-706-4029